

保険適用開始!

腎臓がんにもロボット支援手術

鳥大病院泌尿器科が、先進医療の参加施設の一つとして取り組んだロボット支援腎部分切除術は、その有効性および安全性が認められ平成28年4月より保険適用となりました。ロボット支援手術における保険診療は、前立腺がんに次いで2番目となります。

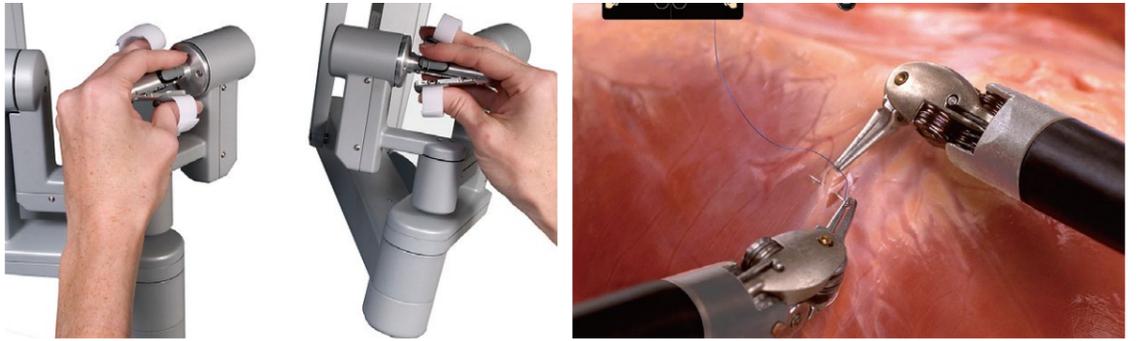
Q ロボット支援手術とは?



実際の手術の様子

ロボットが自動的に手術をするのではなく、医師が操作し、操作に連動したロボットアームによって行う体腔鏡手術のことを言います。(※体腔鏡=腹腔鏡+胸腔鏡)小さな傷口から入って、鉗子(ミニチュアの手のようなもの)を体の中で動かすようなイメージです。

Q なぜロボット支援手術なのか?



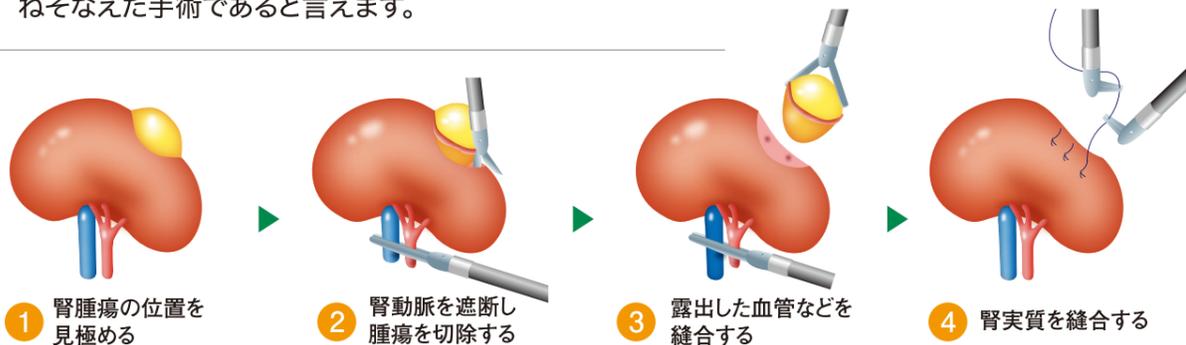
手ブレがなく、高い関節自由度を持つロボット鉗子で自在に動ける

腎部分切除術は非常に難易度の高い手術です。それは、腎臓の血流を一時的に遮断し、できるだけ短時間で腫瘍部分を切除し、その欠損部分を糸で縫い合わせる必要があるからです。腎臓への血流の遮断時間が長くなればなるほど腎臓の機能は低下してしまうため、迅速かつ確実な切除と縫合操作が要求されます。腹腔鏡手術は開腹手術に比べてお腹を大きく切開する必要がないのが最大のメリットですが、自由度の低い鉗子で切除と縫合を行うため、時に手術が安全に施行できないことがあります。

その点、ロボット支援手術は画像が肉眼の10倍と大きく、遠近感のある3D画像を見ながら人間の手と同等以上に動くロボット鉗子を用いて実施するため、精密な切開や縫合を素早く行うことができるのです。まさに、開腹手術と腹腔鏡手術の利点を合わせ持ち、「やさしさと正確さ」を兼ねそなえた手術であると言えます。

Q 腎部分切除術とは?

腎臓にできた腫瘍部分のみを切除し正常部分を温存する術式です。ロボット手術の場合は7cm以下の転移のない腫瘍(1期)が対象です。(1期のがんでも発生場所によってはロボット手術ができない場合もあります。)



当院泌尿器科では、全国有数の症例数を誇り、今後も指導的な立場の病院としてより安全で確実な手術の遂行に努めていきます。

そして病院としては、消化器がん、子宮がん、肺がん、膀胱がん、咽頭がん、心臓弁膜症などの術式も早く保険適用となるよう、症例を重ねてまいります。

「てんかん」は、実は誰にでも起こる可能性のある「よくある病気」の一つです。脳にある神経の電気的な活動が増えすぎて、「てんかん発作」が繰り返して起きる病気のことをいいます。この病気には多くの種類があり、症状や治り方がずいぶん違います。詳しい診断を知っておくことが大切です。発症は小児と高齢者に多く、70〜80%の発作は抑制され、半数の患者さんは完全に治癒します。また、遺伝性のもは非常に少ないことも明らかになっています。多数の新薬が日本で認可されており、手術で治るてんかんもあります。

最近テレビなどでよく耳にする「てんかん」という病名。色々な情報が飛び交う中、正しく「てんかん」という病名を知ってもらおうと、また多様な困難さを持つ方の支援策として、国は「てんかん地域診療連携体制整備事業」を立ち上げました。全国8病院が選定され、鳥取県では当院が拠点機関となりました。地域の病院と連携し、てんかんのある方が標準的な治療を受けることができ、必要な福祉や行政サービスを受けることができるよう支援、相談を行ってまいります。

【問い合わせ・相談】
てんかん診療支援コーディネーター ☎0859-38-7504
●日時 火曜日・金曜日 9時～15時 (それ以外の月・水・木は、事務職員が受付対応し、後日連絡します。)

「てんかん」って
どんな病気?
てんかん診療拠点機関としての役割



小児在宅支援センターとは、難病や重症心身障がいなどの医療的ケアが必要な子どもと家族が、孤立せず地域生活、在宅生活を送るための支援や助言ができる訪問診療医や訪問看護士等の専門家の育成、学生教育やボランティア人材育成など、小児在宅ケアの専門人材育成拠点です。

このセンターは、日本財団と鳥取県が共同で実施している「日本のボランティア先進県」プロジェクト「難病の子どもと家族の地域生活支援」の一環として、11月1日に開設し、2日には開所記念式典を行いました。

この事業により、長期入院患者さんの減少や、地域の小児在宅医療の向上、また在宅支援によって、患者さんやそのご家族の生活の質の向上が期待できます。

小児在宅ケアの専門人材を育成する
「小児在宅支援センター」

内視鏡室 リニューアル

内視鏡室の改修工事が終わり、平成28年9月5日から運用を開始しました。内装および配置を変え、皆さんにより快適にご利用いただけるようになりました。これまで以上に整った環境で、引き続き、安心安全な内視鏡検査を提供してまいります。

Renewal

- 床は木目調で、室内照明は以前より明るくなりました。
- 更衣スペースは、カーテンで仕切られたものからロッカー付きの個室となり、安全のためナースコールもついてます。
- 効率よく検査を受けていただくため、更衣室を3室に増やしました。
- 準備のできた患者さんが冊子等を読みながらお待ちいただけるスペースを用意しました。
- 検査後、医師からの説明を行う面談室を設置しました。



とりだい病院の 新しい顔



第一外科主任診療科長 藤原義之

「すべては患者さんのために」

平成28年11月1日より第一外科診療科群、主任科長に就任しました。私は岡山市で生まれ、大阪大学消化器外科から大阪のがんセンターである大阪府立成人病センターにて消化器外科の診療と研究に携ってきました。このたび赴任した鳥取大学病態制御外科(第一外科)は、開講から70年近い伝統のある教室であり、山陰地方に多くの優秀な人材を輩出してきました。この伝統を受け継いで、優れた倫理観と診療手腕を持った医師の育成、将来の医療の発展のための研究、そして高度医療の推進を目指していきたいと思っております。我々のモットーは「すべては患者さんのために」であり、この言葉のもとに、看護師、技師、薬剤師などの多職種間での連携を密にし、安全で確実な医療を提供したいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

病院敷地内は完全禁煙です

当院では、医療機関として最適な療養環境の提供ならびに職場環境の整備をめざし、平成19年4月1日より敷地内を全面禁煙としています。敷地内とは、建物内・外、駐車場、車内など全ての場所を含みます。また、この措置は、外来だけでなく、入院患者さん、ご家族やお見舞いの方、来院者、病院職員全ての人が対象となります。病院敷地内では喫煙されませんよう、皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



イルミネーションで、笑顔広がる

- 期間：平成28年11月21日～平成29年1月8日
- 時間：毎日17時～22時まで

今年で3回目となるイルミネーションによるライトアップを外来玄関前ロータリー一帯で行います。動物や楽器を奏でる少女のイルミネーションをはじめ、今年は「幸せで明るい世の中が次々とめぐりますように」と祈りをこめて夢の遊園地をイメージしたイルミネーションを設置しました。ぜひご覧ください。



職員2,000人 総活躍!

とりだい病院を支えるスタッフ

第3回

臨床検査技師



臨床検査とは、病気の診断や治療、検診に使われる検査のひとつです。患者さんから採取した血液、尿などの材料で行う「検体検査」と患者さんの体に直接触れて行う心電図、呼吸機能、脳波、超音波検査などの「生理検査」の大きく2つに分かれています。当院には、それぞれの検査に関する専門的資格を持つ臨床検査技師がいて、正確かつ高精度な検査を安全かつ迅速に行っています。緊急に検査が必要な場合には24時間対応しており、大学病院ならではの特殊な検査も行っています。

臨床検査で患者さんの状態を数値化、可視化することにより、病気を客観的に診断、治療することができます。また、輸血を安全に実施するために必要な検査や、手術前に超音波検査を用いて下肢静脈血栓の有無を調べるスクリーニング検査などは、医療の安全確保や、医師の負担軽減などに寄与しています。

チーム医療への関わりとしては、糖尿病支援チームや栄養サポートチーム(NST)に参加すると共に、感染制御部のICT活動(院内感染対策)において重要な役割を担っています。

臨床検査技師は「正確な検査結果」を報告することで、より質の高い医療の提供に貢献しています。

病気に負けまい!! 予防栄養

第5回

ビタミンで予防栄養 ～ウイルスや飲み会に負けない体を作る～

忘年会、新年会など、冬場の体調管理を怠ると、身体の抵抗力も落ち、風邪やインフルエンザ、ノロウイルスにも感染しやすくなります。そこで、抵抗力をつけるために是非、とっていただきたい栄養素があります。



ビタミンA

鼻・喉の粘膜乾燥や風邪のウイルス進入を防ぐ粘膜形成に働きます。
食品：人参、南瓜、小松菜、にら、ブロッコリー等の緑黄色野菜

ビタミンC

強い歯茎や血管、骨や筋肉などを作るコラーゲン形成に役立ち、白血球の働きも強化するなど、免疫力や抵抗力アップに役立ちます。
食品：ゆず、レモン、柿、キウイ等の果物、ピーマン、ブロッコリー、カリフラワー、じゃが芋

ビタミンD

インフルエンザ予防にも関係すると言われており、免疫力の調整に働きます。
食品：魚介類、さくらげ、干椎茸
注意：日光に当たることで体に必要な半分のビタミンDを作ることができ、特に冬場の日光浴は大切です。

ビタミンB1

エネルギーを吸収するのに必要で、疲れにくい体を作るために重要です。
食品：豚肉、大豆、きな粉、うなぎ等の魚介類、海藻類
注意：摂取できる量が少なく、甘いもの、アルコールを多くとると、消費してしまいます。

ビタミンに加えて、基礎体力をつけるためには、たんぱく質(魚介類、肉類、大豆製品、卵、乳製品)の摂取も重要です。ウイルスは低温、乾燥を好むため、冬は感染症が流行しやすい季節です。食べ物に意識して、体調を崩さず冬を乗り越えましょう。